



（社）鳥取青年会議所（鳥取市本町三十二〇一鳥取市商工会議所ビル4F、山根康穂理事長）では、今月の5日からの二日間と13日からの二日間に震災で被災した岩手県山田町での支援活動を行った。

第一陣は、各地から集まったボランティアらと共に瓦礫撤去や、現地の被災した民家などで片付けや掃除といった復旧支援活動を。第二陣は、子供向け映画の上映や炊き出

そして「自分のところの山にある木で作れないか」という声も上がった。

『組手仕』の取り組みは、愛知で発案され、鳥取で流通の仕組みが作られたという経緯があり、以前から「同じ理念を共有できるなら全国へ広めたい」としていただけない、この成果は大きいだろう。

今後は「引き続き『緑の募

金』により、5月下旬を目処に智頭、愛知、宮城、山梨と、広範囲で製作する予定だ」としている。

「多くの協力、そして智頭町民の恐ろしいまでの熱意。それが現地スタッフ、避難所の方に、前向きなカタチで伝わった。今後の支援、『組手仕』普及にかかる体制も確立できた。次につなげたい。」

と相談をして、環境面などから決めたもの。

初日の幼稚園でのアニメ上映には、そこに通う園児と保護者計40名が集まった。また、同日にはポップコーン300個、ホットドッグ300本を炊き出し。

2日目は避難所となっている山田高校での上映し、ポップコーン、事前に鳥取県でついできた餅を炭で焼き提供した。

鳥取JC 岩手県で被災地支援

子供向け映画を上映

し支援活動を行った。

どちらも前日に、現地に出発。約18時間かけ到着後、二日間それぞれの活動を行った。

これらは、連絡調整機関である（社）日本青年会議所（事務局：東京都）を通じて、現地の要望を聞き取り行ったもの。この2回の活動で計11名の会員が参加し、現地での支援活動にあたった。

活動のひとつである映画上映は、現地ボランティア団体

「両日とも温かいものを、とコンソメスープも炊き出した。自身が被災しているにもかかわらず、支援側にまわって皆のためにしている人も多く、頭が下がる思い」と、現地での活動を行った水野由久氏は話している。

また、第一陣として復旧支援活動を行った有本由紀子氏は、「ひとつの民家掃除や片付けの作業が数日間かかる。現地では、地道な作業が続いている。現地でも場所ごとに状況は様々に異なっていた。システムとして十分に機能し

ていない部分もある」と、現地での活動を振り返る。

同会議所では、水害被害が頻発した数年前より防災対策を立てており、今回の震災でも、早急な支援物資支援活動など、迅速な対応が可能だったという。

同会議所では、今後も長期的な継続した支援活動を計画している。